

資料3-2

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会
共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点
に関する作業部会
(第10期-第7回)R2.7.22

国立大学附置研究所・センター会議第三部会（人文・社会科学系）からの要望の検討（案）

<要望①>

2. 共同利用・共同研究拠点の状況

2-1. 拠点の活動状況等

1. 実施計画及び実施状況

○拠点の目的・ミッションとその達成度：自由記述として大きめの欄で説明できるようにしていただきたい。

【方向性（案）】

・拠点の実実施計画及び実施状況を記載する欄は自由記述としているところ、現行の項目どおりとし、記入要領において「拠点の目的・ミッションとその達成度」も記載できるよう例示することとしてはどうか。

<現行の評価調書における該当箇所>

（評価調書の項目）

2. 共同利用・共同研究拠点の状況

2-1. 拠点の活動状況等

1. 実施計画及び実施状況（平成○年度）

| 平成○年度実施計画 |
|-----------|
| |
| 平成○年度実施状況 |
| |

（評価調書の記入要領）

2. 共同利用・共同研究拠点の状況

2-1. 拠点の活動状況等

1. （平成○年度における）実施計画及び実施状況

共同利用・共同研究拠点実施計画書の内容及び実施状況について、簡潔に記入してください。

<要望②>

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

○「うち国際学術誌掲載論文数」：この区分において雑誌掲載論文だけでなく、国際論文集等に掲載された論文の数も含めるようにしていただきたい。また、国際的な学術言語が日本語である日本研究を行う拠点においては、この項目を非該当とした上で備考欄などに適宜説明することを認めていただき、数字の読み取りにおいて不利にならないよう、日本語論文を適切に評価していただきたい。

【方向性（案）】

- ・記入要領に以下の注記を追加してはどうか。なお、追加する場合は集計対象の変更に伴う各拠点の作業負担等の観点にも留意。
 “ ※「うち国際学術誌掲載論文数」の計上に当たっては、国際論文集に掲載された論文数についても計上して差し支えありません。”
- ・各研究分野に応じた重要な使用言語の特性等については、必要に応じて備考欄に記載いただくこととしてはどうか。

<現行の評価調書における該当箇所>

（評価調書の項目）

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

○共同利用・共同研究による成果として発表された論文の総数

| 区分 | 平成○年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 平成○年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 備考 |
|---------|-------|--------------|-------|--------------|----|
| 化学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 材料科学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 物理学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 計算機&数学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 工学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 環境&地球科学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 臨床医学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 基礎生命科学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 人文社会系 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 合計 | 0 | (0) | 0 | (0) | |

①拠点に所属する者（大学院生を含む）のみの論文

| 区分 | 平成○年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 平成○年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 備考 |
|---------|-------|--------------|-------|--------------|----|
| 化学 | | | | | |
| 材料科学 | | | | | |
| 物理学 | | | | | |
| 計算機&数学 | | | | | |
| 工学 | | | | | |
| 環境&地球科学 | | | | | |
| 臨床医学 | | | | | |
| 基礎生命科学 | | | | | |
| 人文社会系 | | | | | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

②拠点に所属する者と拠点以外に所属する者（国外の研究機関に所属する者を除く）の論文

| 区分 | 平成○年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 平成○年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 備考 |
|---------|-------|--------------|-------|--------------|----|
| 化学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 材料科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 物理学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 計算機&数学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 工学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 環境&地球科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 臨床医学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 基礎生命科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 人文社会系 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

※右側の()内には、拠点に所属する者（大学院生を含む）が、特に重要な役割・高い貢献（ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー等）を果たしている論文（内数）を記入し、ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー以外で、論文における重要な役割を果たしているものとして、内数に計上しているものがある場合は、その役割を以下に記入してください。

③拠点以外に所属する者（国外の研究機関に所属する者を除く）のみの論文

| 区分 | 平成○年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 平成○年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 備考 |
|---------|-------|--------------|-------|--------------|----|
| 化学 | | | | | |
| 材料科学 | | | | | |
| 物理学 | | | | | |
| 計算機&数学 | | | | | |
| 工学 | | | | | |
| 環境&地球科学 | | | | | |
| 臨床医学 | | | | | |
| 基礎生命科学 | | | | | |
| 人文社会系 | | | | | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

※拠点における共同利用・共同研究の成果である論文の Acknowledgement（謝辞）がある論文のみを記入してください。

④国内の研究機関（拠点を含む）に所属する者と国外の研究機関に所属する者の論文

| 区分 | 平成○年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 平成29年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 備考 |
|---------|-------|--------------|--------|--------------|----|
| 化学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 材料科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 物理学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 計算機&数学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 工学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 環境&地球科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 臨床医学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 基礎生命科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 人文社会系 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

※拠点に所属する者を含まない論文については、拠点における共同利用・共同研究の成果である論文の Acknowledgement（謝辞）がある論文のみを記入してください。

※右側の()内には、拠点に所属する者（大学院生を含む）が、特に重要な役割・高い貢献（ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー等）を果たしている論文（内数）を記入し、ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー以外で、論文における重要な役割を果たしているものとして、内数に計上しているものがある場合は、その役割を以下に記入してください。

⑤国外の研究機関に所属する者のみの論文

| 区分 | 平成○年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 平成○年度 | うち国際学術誌掲載論文数 | 備考 |
|---------|-------|--------------|-------|--------------|----|
| 化学 | | | | | |
| 材料科学 | | | | | |
| 物理学 | | | | | |
| 計算機&数学 | | | | | |
| 工学 | | | | | |
| 環境&地球科学 | | | | | |
| 臨床医学 | | | | | |
| 基礎生命科学 | | | | | |
| 人文社会系 | | | | | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

※拠点における共同利用・共同研究の成果である論文の Acknowledgement（謝辞）がある論文のみを記入してください。

<現行の評価調書における該当箇所>

(評価調書の記入要領)

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

共同利用・共同研究による成果として発表された学術論文について、著者の構成により下の5つに分けて区分毎に記入してください。

なお、拠点に所属する者を執筆者に含まない論文については、Acknowledgement (謝辞)に拠点における共同利用・共同研究による成果であるとして発表された論文のみを記入してください。

① 拠点に所属する者(大学院生を含む)のみの論文

単著の論文数や拠点に所属する者のみを共著者としている論文数を記入してください。

② 拠点に所属する者と拠点以外に所属する者(国外の研究機関に所属する者を除く)の論文

拠点に所属する者と拠点以外に所属する者の共著論文数について記入してください。

③ 拠点以外に所属する者(国外の研究機関に所属する者を除く)のみの論文

拠点以外の国内の研究機関に所属する者の論文数を記入してください。

④ 国内の研究機関(拠点を含む)に所属する者と国外の研究機関に所属する者の論文

国内の研究機関(拠点を含む)に所属する者と国外の研究機関に所属する者の共著論文数を記入してください。

⑤ 国外の研究機関に所属する者のみの論文

国外の研究機関に所属する者の単著論文または国外の研究機関に所属する者のみの共著論文数を記入してください。

※ 拠点に所属する者とは、「1-2. 研究施設の組織等、1. 教員数」に含めた教職員及び指導している大学院生、ポスドク等の研究員としてください。

※ 学内の紀要等に発表されたものは対象外とします。

※ 区分については、科学技術政策研究所が実施している「科学研究のベンチマーキング (<http://www.nistep.go.jp/wp/wp-content/uploads/NISTEP-RM239-FullJ.pdf>)」本編9ページの調査分野(化学、材料科学、物理学、計算機・数学、工学、環境・地球科学、臨床医学、基礎生命科学)に人文社会系を追加した9区分で集計してください。なお、融合分野など完全にあてはまる分野がない場合でも一番近いと思われる分野で集計してください。

※ ②④については、括弧内に拠点に所属する者(大学院生を含む)が、特に重要な役割・高い貢献(ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー等)を果たしている論文数(内数)を記入し、ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー以外で、論文における重要な役割を果たしているものとして、内数に計上しているものがある場合は、その役割も記入してください。

<要望③>

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

○②④国内・国際共著論文：多くの人文科学系拠点ではあまり見られない論文発表形態であるので、記入を任意とする。

【方向性(案)】

・論文数の計上に当たっては全ての区分を記入いただくこととし、研究分野の特性を踏まえた著者の構成の事情等は、必要に応じて備考欄に記載いただくこととしてはどうか。

<現行の評価調査書における該当箇所>

(評価調査書の項目)

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

○共同利用・共同研究による成果として発表された論文の総数

| 区分 | 平成○年度 | | 平成○年度 | | 備考 |
|---------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|
| | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | |
| 化学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 材料科学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 物理学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 計算機&数学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 工学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 環境&地球科学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 臨床医学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 基礎生命科学 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 人文社会系 | 0 | (0) | 0 | (0) | |
| 合計 | 0 | (0) | 0 | (0) | |

①拠点に所属する者(大学院生を含む)のみの論文

| 区分 | 平成○年度 | | 平成○年度 | | 備考 |
|---------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|
| | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | |
| 化学 | | | | | |
| 材料科学 | | | | | |
| 物理学 | | | | | |
| 計算機&数学 | | | | | |
| 工学 | | | | | |
| 環境&地球科学 | | | | | |
| 臨床医学 | | | | | |
| 基礎生命科学 | | | | | |
| 人文社会系 | | | | | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

②拠点に所属する者と拠点以外に所属する者(国外の研究機関に所属する者を除く)の論文

| 区分 | 平成○年度 | | 平成○年度 | | 備考 |
|---------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|
| | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | |
| 化学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 材料科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 物理学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 計算機&数学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 工学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 環境&地球科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 臨床医学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 基礎生命科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 人文社会系 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 合計 | 0 | (0) | 0 | (0) | |

※右側の()内には、拠点に所属する者(大学院生を含む)が、特に重要な役割・高い貢献(ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー等)を果たしている論文(内数)を記入し、ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー以外で、論文における重要な役割を果たしているものとして、内数に計上しているものがある場合は、その役割を以下に記入してください。

③拠点以外に所属する者(国外の研究機関に所属する者を除く)のみの論文

| 区分 | 平成○年度 | | 平成○年度 | | 備考 |
|---------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|
| | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | |
| 化学 | | | | | |
| 材料科学 | | | | | |
| 物理学 | | | | | |
| 計算機&数学 | | | | | |
| 工学 | | | | | |
| 環境&地球科学 | | | | | |
| 臨床医学 | | | | | |
| 基礎生命科学 | | | | | |
| 人文社会系 | | | | | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

※拠点における共同利用・共同研究の成果である旨の Acknowledgement(謝辞)がある論文のみを記入してください。

④国内の研究機関(拠点を含む)に所属する者と国外の研究機関に所属する者の論文

| 区分 | 平成○年度 | | 平成29年度 | | 備考 |
|---------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|
| | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | |
| 化学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 材料科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 物理学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 計算機&数学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 工学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 環境&地球科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 臨床医学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 基礎生命科学 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 人文社会系 | (0) | (0) | (0) | (0) | |
| 合計 | 0 | (0) | 0 | (0) | |

※拠点に所属する者を含まない論文については、拠点における共同利用・共同研究の成果である旨の Acknowledgement(謝辞)がある論文のみを記入してください。

※右側の()内には、拠点に所属する者(大学院生を含む)が、特に重要な役割・高い貢献(ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー等)を果たしている論文(内数)を記入し、ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー以外で、論文における重要な役割を果たしているものとして、内数に計上しているものがある場合は、その役割を以下に記入してください。

⑤国外の研究機関に所属する者のみの論文

| 区分 | 平成○年度 | | 平成○年度 | | 備考 |
|---------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|
| | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | うち国際学術誌掲載論文数 | |
| 化学 | | | | | |
| 材料科学 | | | | | |
| 物理学 | | | | | |
| 計算機&数学 | | | | | |
| 工学 | | | | | |
| 環境&地球科学 | | | | | |
| 臨床医学 | | | | | |
| 基礎生命科学 | | | | | |
| 人文社会系 | | | | | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

※拠点における共同利用・共同研究の成果である旨の Acknowledgement(謝辞)がある論文のみを記入してください。

<現行の評価調書における該当箇所>

(評価調書の記入要領)

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

共同利用・共同研究による成果として発表された学術論文について、著者の構成により下の5つに分けて区分毎に記入してください。

なお、拠点に所属する者を執筆者に含まない論文については、Acknowledgement (謝辞)に拠点における共同利用・共同研究による成果であるとして発表された論文のみを記入してください。

① 拠点に所属する者（大学院生を含む）のみの論文

単著の論文数や拠点に所属する者のみを共著者としている論文数を記入してください。

② 拠点に所属する者と拠点以外に所属する者（国外の研究機関に所属する者を除く）の論文

拠点に所属する者と拠点以外に所属する者の共著論文数について記入してください。

③ 拠点以外に所属する者（国外の研究機関に所属する者を除く）のみの論文

拠点以外の国内の研究機関に所属する者の論文数を記入してください。

④ 国内の研究機関（拠点を含む）に所属する者と国外の研究機関に所属する者の論文

国内の研究機関（拠点を含む）に所属する者と国外の研究機関に所属する者の共著論文数を記入してください。

⑤ 国外の研究機関に所属する者のみの論文

国外の研究機関に所属する者の単著論文または国外の研究機関に所属する者のみの共著論文数を記入してください。

※ 拠点に所属する者とは、「1-2. 研究施設の組織等、1. 教員数」に含めた教職員及び指導している大学院生、ポスドク等の研究員としてください。

※ 学内の紀要等に発表されたものは対象外とします。

※ 区分については、科学技術政策研究所が実施している「科学研究のベンチマーキング (<http://www.nistep.go.jp/wp/wp-content/uploads/NISTEP-RM239-FullJ.pdf>)」本編9ページの調査分野（化学、材料科学、物理学、計算機・数学、工学、環境・地球科学、臨床医学、基礎生命科学）に人文社会系を追加した9区分で集計してください。なお、融合分野など完全にあてはまる分野がない場合でも一番近いと思われる分野で集計してください。

※ ②④については、括弧内に拠点に所属する者（大学院生を含む）が、特に重要な役割・高い貢献（ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー等）を果たしている論文数（内数）を記入し、ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー以外で、論文における重要な役割を果たしているものとして、内数に計上しているものがある場合は、その役割も記入してください。

<要望④>

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

- インパクトファクターを用いることが適当でない分野等の場合：人文科学系ではインパクトファクターを持つ雑誌への論文掲載を記載することが難しいが、さらにインパクトファクターを用いることが適当でない分野での質の高い論文について記述する場合でも、雑誌論文のみならず、**書籍および論文集掲載論文の記載**も認めていただきたい。また、著書・論文の質を評価する根拠データとして、i) 学術誌や専門書での書評、紹介、その評者、ii) 新聞、一般雑誌、テレビ、ネットでの書評、紹介、その評者、iii) 海外における翻訳、iv) 博物館展示や社会教育・学校教育への還元、**社会的文化的なインパクト**、v) 発行部数やダウンロード数、vi) 受賞、など個々の論文で異なる、多様な評価指標が考えられるため、一つの理由説明欄だけでは足りず、1行ごとに備考欄が必要である。

【方向性(案)】

- ・「インパクトファクター以外の指標とその理由」欄を、記載する雑誌ごとに記入できるよう追加してはどうか。
- ・「雑誌名」や「掲載論文数」だけでなく、書籍等も記載できる項目として修正するとともに、その他参考情報については、上記の「インパクトファクター以外の指標とその理由」欄に必要に応じて記載いただくこととしてはどうか。

<現行の評価調書における該当箇所>

(評価調書の項目)

○高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、インパクトファクター、掲載論文数、掲載された論文のうち主なものを記載してください。

※拠点以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付してください。

| 雑誌名 | インパクトファクター | 掲載論文数 | 主なもの | | |
|-----|------------|-------|------|-----|------|
| | | | 掲載年月 | 論文名 | 発表者名 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

(注)インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載の上で、掲載雑誌名等を記載してください。

※拠点以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付してください。

| インパクトファクター以外の指標とその理由 | | | | | |
|----------------------|-------|------|-----|------|--|
| 雑誌名 | 掲載論文数 | 主なもの | | | |
| | | 掲載年月 | 論文名 | 発表者名 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

(評価調書の記入要領)

○ 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、インパクトファクター、掲載論文数、掲載された論文のうち主なものを記載してください。

※ 拠点以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付してください。

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載の上で、掲載雑誌名等を記載してください。

※ 拠点以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付してください。

<要望⑤>

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

○共同利用・共同研究による成果として発行した研究書：

○多様な業績：文献の翻訳・注釈・校訂、各種の目録や資料集、事典や辞書、文法書や語彙集などの**基礎資料**、考古学・人類学などの**フィールド調査報告**なども学術書の数に含まれるように明示していただきたい。

○**編著者名**：研究書業績において、**編著者名**は人文・社会系研究の重要な情報であるため、書名のみでなく編著者名も記入すべきである。

【方向性（案）】

・共同利用・共同研究の成果によるものであれば、文法書や語彙集などの**基礎資料**や**フィールド調査報告**等も研究書の成果として記載できる旨を記入要領に追記してはどうか。

・研究書については、「**編著者名**」について記載する欄（列）を追加してはどうか。

<現行の評価調書における該当箇所>

（評価調書の項目）

○共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

| 研究書数の合計 | 平成○年度 | 平成○年度 | 平均 |
|---------|-------|-------|------|
| | | | |
| 研究書の名称 | | 発行年月 | 出版社名 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

○分野の特性に応じ、論文及び研究書以外に適切な評価指標がある場合には当該指標と、当該分野におけるその評価指標の妥当性・重要性を記載するとともにその成果の実績を記載してください。

○上記以外に、**独自の学術活動状況の成果の実績などアピールポイントがあれば記載してください。**
特色ある共同研究活動成果の実績（異分野融合・新分野創出の成果等を含む）についてアピールポイントがあれば記載してください。

（評価調書の記入要領）

○共同利用・共同研究による成果として発行した研究書（平成○年度）
 人文社会系において、論文以外で共同利用・共同研究による成果を示せる研究書がある場合は、平成○年度に発行した研究書数の合計を記入し、その中で**5件まで厳選して研究書の名称、発行年月及び出版社名について記入してください。**

○分野の特性に応じ、論文及び研究書以外に適切な評価指標がある場合には当該指標と、当該分野におけるその評価指標の妥当性・重要性を記載するとともにその成果の実績を記載してください。

○上記以外に、**独自の学術活動状況の成果の実績などアピールポイント**特色ある**共同研究活動成果の実績（異分野融合・新分野創出の成果等を含む）**について**アピールポイント**があれば記載してください。

※赤字の修正部分は前回（第10期-第6回）の共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会の資料1で示した修正案

<要望⑥>

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

2. 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数

- 長期スパン：人文・社会科学系研究成果の掲載・刊行には多くの時間を要することが多いため、自由記述欄に「独自の学術活動の成果の実績」のほか、「刊行計画」等も記すことができるようにしていただきたい。

【方向性（案）】

- ・「刊行計画」については、現行の評価調書においても、必要に応じてアピールポイントを自由記述として記載できるため、現行どおりとしてはどうか。

<現行の評価調書における該当箇所>

（評価調書の項目）

○共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

| 研究書数の合計 | 平成○年度 | 平成○年度 | 平均 |
|---------|-------|-------|------|
| | | | |
| 研究書の名称 | | 発行年月 | 出版社名 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

○分野の特性に応じ、論文及び研究書以外に適切な評価指標がある場合には当該指標と、当該分野におけるその評価指標の妥当性・重要性を記載するとともにその成果の実績を記載してください。

○上記以外に、独自の学術活動状況の成果の実績などアピールポイントがあれば記載してください。特色ある共同研究活動成果の実績（異分野融合・新分野創出の成果等を含む）についてアピールポイントがあれば記載してください。

（評価調書の記入要領）

○ 共同利用・共同研究による成果として発行した研究書（平成○年度）

人文社会系において、論文以外で共同利用・共同研究による成果を示せる研究書がある場合は、平成○年度に発行した研究書数の合計を記入し、その中で 5 件まで厳選して研究書の名称、発行年月及び出版社名について記入してください。

○ 分野の特性に応じ、論文及び研究書以外に適切な評価指標がある場合には当該指標と、当該分野におけるその評価指標の妥当性・重要性を記載するとともにその成果の実績を記載してください。

○ 上記以外に、独自の学術活動状況の成果の実績などアピールポイント特色ある共同研究活動成果の実績（異分野融合・新分野創出の成果等を含む）についてアピールポイントがあれば記載してください。

※赤字の修正部分は前回（第10期-第6回）の共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会の資料1で示した修正案

<要望⑦>

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

3. 共同利用・共同研究の活動状況

③共同利用・共同研究の参加状況

- 区分として、「民間機関」の後に「NPOや地域等」の記入欄を設ける。
- 受入人数と延べ人数の間に開催日数の項目を入れていただきたいという意見もあった。

【方向性（案）】

- ・現行の評価調書においても、「NPOや地域等」からの参加状況は「その他」の区分において計上できるが、多様な区分をより明確にするため、「その他」区分に計上がある場合は、その具体的な所属等を記載できる欄を追加してはどうか。
- ・共同利用・共同研究の参加状況における「延べ人数」については、日数も踏まえた計上としているため、現行どおりとしてはどうか。

<現行の評価調書における該当箇所>

（評価調書の項目）

③共同利用・共同研究の参加状況

| 区分 | 機関数 | 受入人数 | 平成〇年度 | | | 延べ人数 | 外国人 海外研究者 | 若手研究者 (35歳以下) | 大学院生 |
|---------------|-----|------|--------------|------------------|------|------|--------------|------------------|------|
| | | | 外国人 海外研究者 | 若手研究者 (35歳以下) | 大学院生 | | | | |
| 学内(法人内) | | | | | | | | | |
| 国立大学 | | | | | | | | | |
| 公立大学 | | | | | | | | | |
| 私立大学 | | | | | | | | | |
| 大学共同利用機関法人 | | | | | | | | | |
| 独立行政法人等公的研究機関 | | | | | | | | | |
| 民間機関 | | | | | | | | | |
| 外国機関 | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | |
| 学外計 | | | | | | | | | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) | (0) |

（評価調書の記入要領）

③ 共同利用・共同研究の参加状況

共同利用・共同研究の受入機関数、受入人数、延べ人数について、区分に応じて記入してください。

※ 外国人海外研究者、若手研究者（35歳以下）、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対する内数を記入してください。なお、海外研究者については、研究の本拠地を海外に置く研究者の人数について記入してください。

※・赤字の修正部分は前回（第10期-第6回）の共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会の資料1で示した修正案

- ・前回の審議を踏まえ、海外研究者の定義については「本務所属が海外の研究機関である研究者」と修正し、若手研究者については「40歳未満」の研究者数を計上するように修正予定

<要望⑧>

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

3. 共同利用・共同研究の活動状況

⑧共同利用・共同研究を通じた国内外の現地社会への成果還元活動：上記「NPOや地域等」の区分を加えることにより、研究成果の講演だけでなく、技術提供、地域の施設や研究者との連携など、地域社会への成果還元の特化した記述を行うことができる欄が直近にあることが望ましい。

【方向性（案）】

・評価調書に設けられる「多様な研究機関等との連携の取組、産学連携や社会・地域との連携の取組」欄において、必要に応じて自由記述することができるため、現行どおりとしてはどうか。

<現行の評価調書における該当箇所>

（評価調書の項目）

③共同利用・共同研究の参加状況

| 区分 | 機関数 | 受入人数 | 平成○年度 | | 延べ人数 | 平成○年度 | | 大学院生 |
|---------------|-----|------|--------------|------------------|------|--------------|------------------|------|
| | | | 外国人 海外研究者 | 若手研究者 (35歳以下) | | 外国人 海外研究者 | 若手研究者 (35歳以下) | |
| 学内(法人内) | | | | | | | | |
| 国立大学 | | | | | | | | |
| 公立大学 | | | | | | | | |
| 私立大学 | | | | | | | | |
| 大学共同利用機関法人 | | | | | | | | |
| 独立行政法人等公的研究機関 | | | | | | | | |
| 民間機関 | | | | | | | | |
| 外国機関 | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | |
| 学外計 | | | | | | | | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

⑥共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組人材育成機能の強化

⑦関連分野発展への取組(大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築、「共用」を含む研究設備の有効活用等)

⑧多様な連携の取組(多様な研究機関等との連携の取組、産学連携や社会・地域との連携の取組等)

⑨研究施設等を置く大学(法人)の機能強化・特色化に係る取組

（評価調書の記入要領）

③ 共同利用・共同研究の参加状況

共同利用・共同研究の受入機関数、受入人数、延べ人数について、区分に応じて記入してください。

※ 外国人海外研究者、若手研究者(35歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対する内数を記入してください。なお、海外研究者については、研究の本拠地を海外に置く研究者の人数について記入してください。

(略)

⑥ 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組人材育成機能強化の取組

若手研究者(海外研究者を含む)の採用や育成、女性研究者を含めた人材の多様化、先端的・国際的な共同研究等への大学院生の参画を通じた人材育成等の取組状況について記入してください。

⑦ 関連分野発展への取組(大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築、「共用」を含む研究設備の有効活用等)

日本学術会議が策定するマスタープランの重点大型計画、科学技術・学術審議会のロードマップへの掲載等の取組や、ネットワークの構築、「共用」を含む研究設備の有効活用等の取組状況について記入してください。

⑧ 多様な研究機関等との連携の取組、産学連携や社会・地域との連携の取組

国や地域社会との連携(交流協定の締結、イベント共催、共同開発等)、産学連携(産学連携論文数、特許出願数、企業との共同研究数、企業からの相談件数、企業との研究者交流実績等)等の取組について記入してください。

⑨ 研究施設等を置く大学(法人)の機能強化・特色化に関わる取組の実施状況

研究施設等を置く大学(法人)の機能強化・特色化に対して関わった取組について記入してください。

※・赤字の修正部分は前回(第10期-第6回)の共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会の資料1で示した修正案

・前回の審議を踏まえ、海外研究者の定義については「本務所属が海外の研究機関である研究者」と修正し、若手研究者については「40歳未満」の研究者数を計上するように修正予定

<要望⑨>

2-2. 共同利用・共同研究の実施状況

6. 共同利用・共同研究に関するシンポジウム等（主に研究者対象）の実施状況
 ○件数と参加人数のみではなく、開催日数を入れるべき。

【方向性（案）】

- ・開催日数については、全てのシンポジウムの実施状況において集計するのではなく、「主なシンポジウム、研究会等の開催状況」欄において、主なものについて記載いただくこととし、現行どおりとしてはどうか。

<現行の評価調書における該当箇所>

（評価調書の項目）

6. 共同利用・共同研究に関するシンポジウム等（主に研究者対象）の実施状況

①研究者を対象としたシンポジウム等の実施状況

| 年度 | シンポジウム・講演会 | | セミナー・研究会・ワークショップ | | その他 | | 合計 | |
|----|------------|------|------------------|------|-----|------|-------|-------|
| | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 | 件数 | 参加人数 |
| ○ | | | | | | | 0 | 0 |
| | | | | | | | (0) | (0) |
| ○ | | | | | | | 0 | 0 |
| | | | | | | | (0) | (0) |
| 平均 | | | | | | | 0.0 | 0.0 |
| | | | | | | | (0.0) | (0.0) |

○参加人数の算定方法

主なシンポジウム、研究会等の開催状況

| 開催期間 | 形態（区分） | 対象 | 研究会等名称 | 概要 | 加入 |
|------|--------|----|--------|----|----|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

※件数の下段には、国際シンポジウム等の回数（内数）を記入してください。

※参加人数の下段には外国人海外研究者の参加人数（内数）を記入してください。

（評価調書の記入要領）

6. 共同利用・共同研究に関するシンポジウム等（主に研究者対象）の実施状況

①研究者を対象としたシンポジウム等の実施状況

主に研究者を対象とした、共同利用・共同研究の活性化を図る目的で実施した研究会等の実施件数及び参加人数を記入してください。

「主なシンポジウム、研究会等の開催状況」については、上記のうち代表的なものについて、シンポジウム等毎に開催期間、形態（区分）、対象、研究会等名称、概要、参加人数を記入してください。

※ 数が膨大になる場合は、平成○年度をとおした主なもの10件に限定して記入してください。

※ 「形態（区分）」については、シンポジウム、講演会、ワークショップ等の別を記入してください。

※ 「対象」については、国内研究者向けの場合は「国内」、国際的な研究会等の場合は「国際」と記入してください。

※・赤字の修正部分は前回（第10期-第6回）の共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会の資料1で示した修正案

・前回の審議を踏まえ、海外研究者の定義については「本務所属が海外の研究機関である研究者」と修正予定

<要望⑩>

2-3. 共同利用・共同研究に供する施設、設備、資料及びデータ等の利用状況等

○データベース、デジタル・アーカイブの構築・公開状況：社会科学系のデータは既存の「データの作成・公開状況」に記入できるものもあるが、データベースやデジタル・アーカイブは、社会科学系の調査データや自然科学系の観測・実験データとは性格を異にするため、現行のフォーマットを利用するとすれば該当しない欄（「性能」および利用件数のうち数としての「共同利用・共同研究者利用件数」）があり、項目の読み替えや数字のカウント等について説明が必要な場合がある。例えば「蓄積量」を収録データ数と読み替え、「総利用件数」をアクセス数と読み替えることは可能だが、多くが一般公開であるため共同利用・共同研究者のアクセスを特定することができない。あるいは、無理に読み替えて記入するよりも、選択項目として新たなフォーマットを作った方がわかりやすいとも考えられる。

【方向性（案）】

- ・ 現行の評価調書の項目名では、多様な研究分野の特性等に合致する名称とは必ずしもなっていないが、記入要領において、「利用件数」についてはデータへのアクセス件数を記入し、利用件数をカウントできないものについては欄外にその理由を記入する、などと定めているところであり、現行どおりとしてはどうか。
- ・ なお、「性能」の表記については、「価値」等のより適切な表記を検討する。

<現行の評価調書における該当箇所>

（評価調書の項目）

（評価調書の記入要領）

○データの作成・公開状況

| 1 | データ名 | 性能 | 蓄積情報の概要 | | 公開方法 |
|---|--------------------|-------|---------|----|------|
| | 蓄積量／利用・提供状況 | 平成○年度 | 平成○年度 | 平均 | |
| | 蓄積量 | | | | |
| | 利用件数 | | | | |
| | 共同利用・共同研究者利用件数（内数） | | | | |

※世界／国内最高性能をもつデータの場合は、「性能」欄に○（世界最高）、△（国内最高）を記入し、「蓄積情報の概要」欄にどの点が世界／国内最高性能であるのかを記入して下さい。

※利用（アクセス）件数は、上段に総利用（アクセス）件数、下段に共同利用・共同研究者の利用（アクセス）件数（内数）を記入して下さい。

※カウントできないものについては欄外にその理由を記入して下さい。

○ データの作成・公開状況

共同利用・共同研究に供するデータのデータ名、性能、蓄積情報の概要、公開方法を記入のうえ、蓄積量及び利用件数を記入してください。

世界／国内最高性能をもつデータの場合は、「性能」欄に○（世界最高）、△（国内最高）を記入し、「蓄積情報の概要」欄にどの点が世界／国内最高性能であるのかを記入してください。

※ 数が膨大になる場合は、主なもの5件に限定して記入してください。

※ 「利用件数」には、データへのアクセス件数を記入してください。上段に総利用件数、下段に共同利用・共同研究者の利用件数（内数）を記入してください。

※ 利用件数をカウントできないものについては、欄外にその理由を記入してください。